

【実践報告】

福祉系大学の4年生および3年生に対する進路調査アンケート

棚田 裕二 河内 佑美 中嶋 一恵 山地 恭子

Yuji Tanada Yumi Kochi Kazue Nakashima Kyoko Yamaji

キーワード BMS(Bunkyo Management System) 福祉系学生 進路調査

本稿は、人間福祉学科学生の進路選択に関する実態調査を行い、学生の進路決定に影響を与える要因や課題を明らかにすることを目的とし調査した報告である。結果、進路を選択する際の影響として、「専門分野に対する興味や情熱」、「専門科目など講義からの学び」および「インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び」が3年生と4年生ともに高かった。特に、学生は3年生の春期休業の2月または3月に就活を始める傾向にあるため、「インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び」は、3年生が4年生に進級して以降、さらに進路を選択する大きな要因になる可能性がある。

I. はじめに

近年、高齢化や少子化といった社会構造の変化に伴い、福祉はますます重要なテーマとなっている。高齢者や障害者、子どもや家族、貧困層など、様々な支援が必要な人々が存在し、彼らの生活や権利を守るためには、専門的な知識や技術を持った福祉専門職の存在が不可欠である。しかし、福祉専門職が働いている場所は多岐にわたっており、それに伴い、福祉系大学における学生の進路選択も多岐にわたっている。筆者らが所属する広島文教大学人間科学部人間福祉学科（以下、本学科とする）は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士および保育士の国家資格の取得を目指す学科であり、これまで多くの学生が福祉専門職として卒業していった。一方、2019年4月から男女共学に移行したこともあり、従来にも増して学生の進路の志向性が多様化している。このことは、福祉系の大学や学部において、福祉専門職志向の高い学生だけでなく一般企業での就職を志向する学生も在籍していることで、進学・就職キャリアの過程が多様化することを指摘した日本学術会議（2015）の報告と同様の傾向であることを示している。また、就職に関する相談内容として、4年生という進路に迫られた状況で「どのように就職先を決めたらいいのかわからない」、「どのようなことに優先順位をつけて決めたらいいのかわからない」という悩みが聞かれ、多岐にわたる福祉職への選択に悩む姿が少なくない。このように、学生は進路選択に際し、個人の興味や能力、家族や社会からの期待、経済的な状況、そして将来のキャリアの見込みなどといった、様々な要因の影響を受けている。そのため、彼らを支援する教員は、様々な状況を踏まえた進路・就職指導が求められる。

そこで本研究では、本学科学生の進路選択に関する実態調査を行い、その結果を分析することで、学生の進路決定に影響を与える要因や課題を明らかにすることを目的とする。この調査は、本学科教員が学生の進路選択に関する理解を深め、今後卒業年度を迎える学生に対して、より適切な進路を選択するための情報提供や支援を行う上での基盤となることを期待するものである。

II. 研究方法

1. 調査対象者

本調査は、2023年度在学中の4年生64人および3年生65人を対象に調査を実施した。

2. 調査期間

2024年1月15日から同月23日までとした。

3. 調査方法

(1) オンライン調査と回収の手続き

自記式オンライン調査を実施した。アンケートの作成に Microsoft Forms を使用し、調査用の QR コードを作成した。調査対象者へ協力依頼文書と口頭による説明をしたうえで、回答者自身で依頼文書に記載されている QR コードをスマートフォンまたはタブレットを使って読み取り、オンライン上での回答を依頼した。

(2) 調査票作成の手続きと調査内容

BMS 担当である筆者らが議論を重ねて、4年生と3年生のそれぞれ質問項目を作成した。質問内容は以下の通りである。

【4年生】

① 受験（取得）予定の資格について（複数回答可）

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、予定資格なし

② 卒業後の進路について

就職、大学院進学、起業、決まっていない、その他

③ 決まっている進路、または考えている進路の領域について

子ども領域（保育所・児童養護施設など）、障害領域（障害児福祉施設・障害者福祉施設など）、高齢者領域（高齢者福祉施設など）、保健医療領域（医療機関のソーシャルワーカー：MSW・PSW など）、地域福祉領域（社会福祉協議会・地域包括支援センターなど）、公務員、一般企業、全く決まっていない、その他

④ 進路を選択する際に影響を与えた要因について（4件法：「1. 最も影響なし」～「4. 最も影響あり」）

専門分野に対する興味や情熱、専門科目など講義からの学び、インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び、講義や育心などで聞いた現場の人からの経験談、就職フェアなどへの参加、学科教員からの助言や指導、就職課主催のイベントやセミナーへの参加、就職課など

アドバイザーからの助言や指導、他の学生や卒業生の体験談、その他

⑤ 就職活動の開始時期

⑥ 就職の情報サイトの活用度について（4件法：「1. 全く活用しなかった」～「4. よく活用した」）

就職課および大学の就職サイト、民間の就職サイト、県の就職サイト、就職フェア、福祉施設や企業のサイト、その他

⑦ 就職に関わる相談相手について（複数回答可）

親・家族、教員、就職課の職員、先輩、友人・知人、学外の専門家、相談していない、その他

⑧ 相談した内容について（複数回答可）

就職活動の具体的な方法、就職先の選び方、求人票や雇用条件の見方、領域や職種の仕事内容、仕事のやりがい、自分に向いている仕事かどうか、その他

⑨ 就職先を決めた条件と、その影響について（4件法：「1. 最も影響なし」～「4. 最も影響あり」）

給与・賞与、福利厚生（従業員の健康・安全管理など）、勤務時間・勤務の柔軟性、休暇制度、キャリア開発や研修の機会、職場の人間関係、仕事の内容とやりがい、職場の安定性、場所・交通の便、社内文化と価値観、その他

⑩ 大学在学中で、特に心に残る実習経験やボランティアなどの実践経験について（自由記述）

⑪ 就職先を選ぶにあたり、自身が最も大切にしたい価値観や目標について（自由記述）

⑫ 就職先を決定する際に得たアドバイスや支援で、特に印象に残ったものについて（自由記述）

⑬ 進路や就職活動を考える上で、後輩へのアドバイスについて（自由記述）

【3年生】

① 受験（取得）予定の資格について（複数回答可）

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、予定資格なし

② 卒業後の進路について

具体的な就職先（業界や職種）が決まっている、進路の領域は決めているが具体的な就職先までは決まっていない、福祉関連への就職を考えている程度、福祉関連への就職または一般就職で迷っている、一般就職を考えている、進学を考えている、全く決まっていない、その他

③ 決めている進路、または考えている進路の領域について（複数回答可）

子ども領域（保育所・児童養護施設など）、障害領域（障害児福祉施設・障害者福祉施設など）、高齢者領域（高齢者福祉施設など）、保健医療領域（医療機関のソーシャルワーカー：MSW・PSWなど）、地域福祉領域（社会福祉協議会・地域包括支援センターなど）、公務員、一般企業、全く決まっていない、その他

④ 進路を選択する際に影響を与えている要因について（4件法：「1. 最も影響なし」～「4. 最も影響あり」）

専門分野に対する興味や情熱、専門科目など講義からの学び、インターンシップや実習、ボランティア

アやアルバイトなどの実務経験からの学び、講義や育心などで聞いた現場の人からの経験談、就職フェアなどへの参加、学科教員からの助言や指導、就職課主催のイベントやセミナーへの参加、就職課などアドバイザーからの助言や指導、他の学生や卒業生の体験談、その他

⑤ 就職先を決めるための条件と、その影響について（4 件法：「1. 最も影響なし」～「4. 最も影響あり」）

給与・賞与、福利厚生（従業員の健康・安全管理など）、勤務時間・勤務の柔軟性、休暇制度、キャリア開発や研修の機会、職場の人間関係、仕事の内容とやりがい、職場の安定性、場所・交通の便、社内文化と価値観、その他

⑥ 福祉学科の学びの中で、特に心に残る実習経験やボランティアなどの実践経験について（自由記述）

⑦ 進路や領域を選ぶにあたり、自身が最も大切にしたい価値観や目標について（自由記述）

⑧ 進路や領域を決定する際に得たアドバイスや支援で、特に印象に残ったものについて（自由記述）

⑨ 就職先を決定するにあたって、現在、困っていることについて（自由記述）

(3) 分析方法

質問項目ごとに単純集計を行った。

(4) 倫理的配慮

調査協力は強制ではなく自由意思であること、プライバシーは保護されること、得られたデータは数値化し個人が特定できないように処理をすること、適切に管理を行い個人情報の保護に努めることを、依頼文および口頭にて説明した。

III. 調査結果と考察

本調査を実施した結果、2023 年度在学中の 4 年生 60 人（回答率 93.8%）、3 年生 64 人（回答率 98.5%）より回答を得ることができた。

1. 4 年生の調査結果

(1) 受験（取得）予定の資格について（複数回答可）

受験（取得）予定の資格について複数回答にて尋ねた結果、社会福祉士が 49 人、精神保健福祉士が 21 人、介護福祉士が 14 人、保育士が 10 人、資格なしが 6 人であった。そのうち、複数資格受験（取得）予定者は、社会福祉士と精神保健福祉士の 2 資格が 21 人、社会福祉士と介護福祉士の 2 資格が 9 人、社会福祉士と保育士の 2 資格が 9 人であり、社会福祉士のみが 10 人であった。

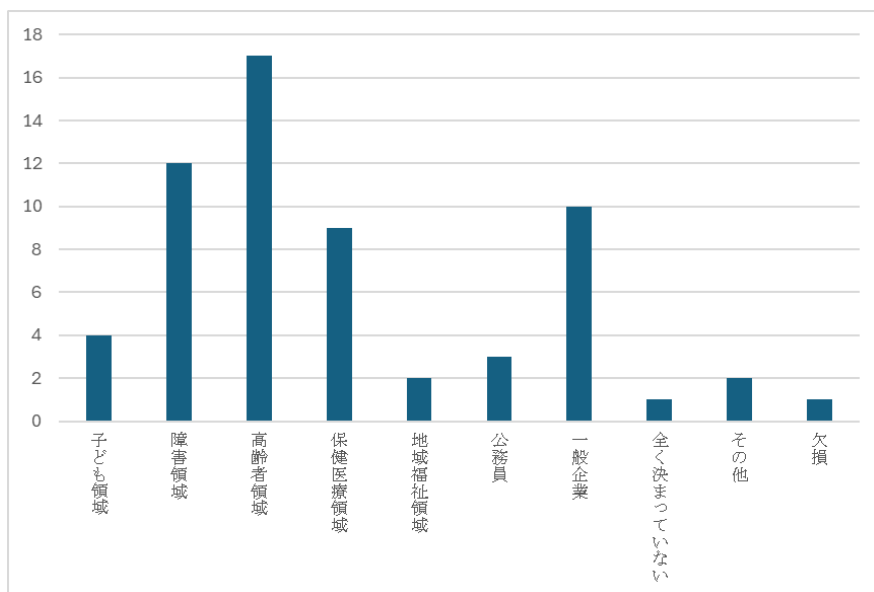
(2) 卒業後の進路について

卒業後の進路について尋ねた結果、就職が 57 人（93.4%）、決まっていないが 3 人（4.9%）、無回答が 1 人（1.6%）、大学院進学と企業およびその他は 0 人であった。

(3) 決まっている進路、または考えている進路の領域について

決まっている進路または考えている進路の領域について尋ねた結果は、図-1 の通りである。最も多か

った「高齢者領域（高齢者福祉施設など）」が17人（27.9%）、以下「障害領域（障害児福祉施設・障害者福祉施設など）」が12人（19.7%）、「一般企業」が10人（16.4%）、「保健医療領域（医療機関のソーシャルワーカー：MSW・PSWなど）」が9人（14.8%）、「子ども領域（保育所・児童養護施設など）」が4人（6.6%）、「公務員」が3人（4.9%）、「地域福祉領域（社会福祉協議会・地域包括支援センターなど）」が2人（3.3%）、「その他」は2人（3.3%）、「全く決まっていない」が1人（1.6%）、無回答が1人（1.6%）であった。なお、その他は法人採用で、その法人が障害者（児）や高齢者など様々な領域を運営していることから配属が決まっていないという回答であった。



図一 決まっている進路、または考えている進路の領域について（4年生）

(4) 就職活動の開始時期について

就職活動の開始時期について尋ねた結果、表1の通りであった。約半数の32人（53.3%）が3年生の後期より就職活動を始めており、特に2月と3月の春期休業中が多かった。

表一 就職活動の開始時期について (4年生)

半期	人	%	学年/月	人	%
3年前期	5	8.3	3年4月	2	3.3
			3年5月	1	1.7
			3年6月	1	1.7
			3年8月	2	3.3
3年後期	32	53.3	3年10月	4	6.7
			3年11月	1	1.7
			3年12月	1	1.7
			3年1月	3	5.0
			3年2月	13	21.7
			3年3月	9	15.0
4年前期	15	25.0	4年4月	4	6.7
			4年5月	4	6.7
			4年7月	4	6.7
			4年8月	2	3.3
			4年9月	1	1.7
4年後期	3	5.0	4年10月	1	1.7
			4年11月	2	3.3
活動なし	2	3.3			
NA	3	5.0			

(5) 就職の情報サイトの活用度について

就職の情報サイトの活用度について、「1. 全く活用しなかった」から「4. よく活用した」までの4件法で尋ねた結果は、図-2 の通りである。直接的に就職先の情報を得ることができるような就職フェアや福祉施設や企業のサイトを活用している人が多かった。

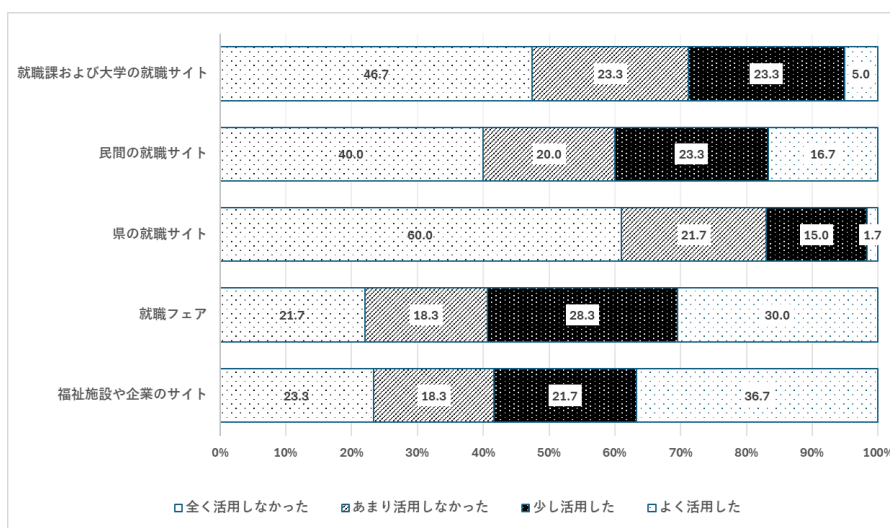


図-2 就職の情報サイトの活用度について (4年生)

(6) 就職に関わる相談相手について

就職に関わる相談相手について複数回答にて尋ねた結果、図-3の通りであった。最も多かった「教員」が52人(86.7%)、以下「親・家族」が47人(78.3%)、「友人・知人」が38人(63.3%)、「就職課の職員」が17人(28.3%)、「先輩」が10人(16.7%)、「学外の専門家」が7人(11.7%)、「相談していない」が3人(5.0%)であった。就職課は広く就職に関する専門的な情報を持っているが、本学科教員の方がより福祉現場に関する専門的な情報を持っているため、相談相手として多かったと推察される。また、「親・家族」「教員」「友人・知人」のように身近で学生本人と面識があり、学生の心情や生活、社会背景などを理解している個人的な関わりがある人物に相談する傾向があった。

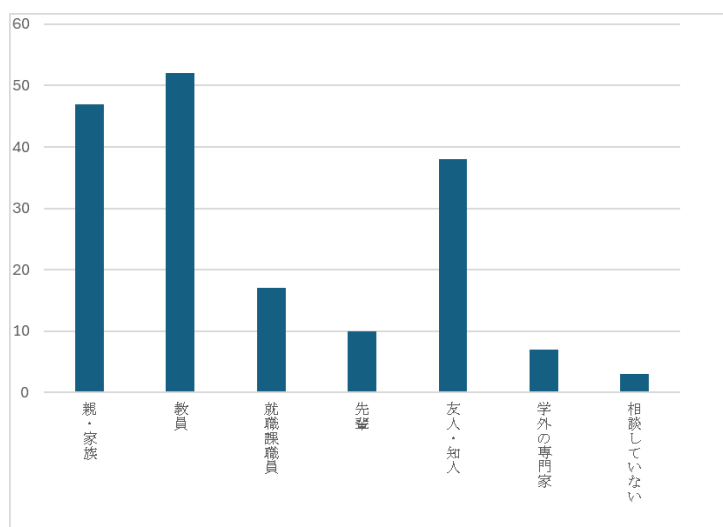


図-3 就職に関わる相談相手について (4年生)

(7) 相談した内容について

相談した内容について複数回答にて尋ねた結果、図-4の通りであった。最も多かった「就職活動の具体的な方法」が45人(75.0%)、以下「就職先の選び方」が40人(66.7%)、「領域や職種の仕事内容」と「自分に向いている仕事かどうか」が22人(36.7%)、「求人票や雇用条件の見方」が19人(31.7%)、「仕事のやりがい」が16人(26.7%)、「その他」が1人(1.7%)であった。

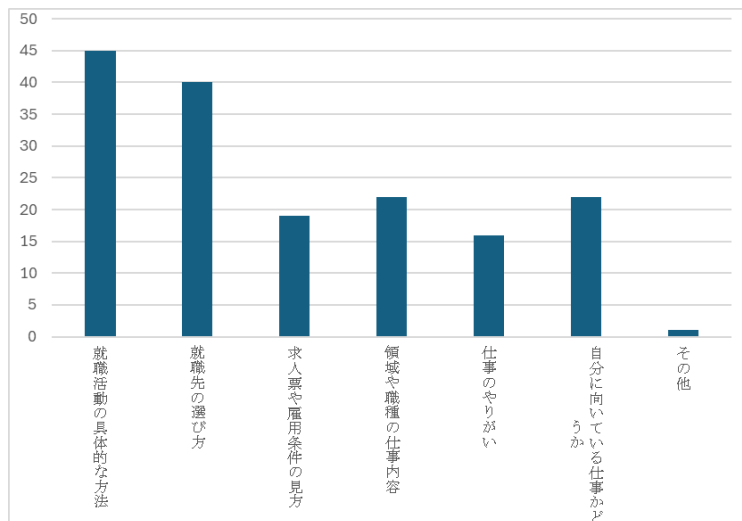


図-4 相談した内容について (4年生)

2. 3年生の調査結果

(1) 受験 (取得) 予定の資格について (複数回答可)

受験 (取得) 予定の資格について複数回答にて尋ねた結果、社会福祉士が 61 人、精神保健福祉士が 21 人、介護福祉士が 11 人、保育士が 10 人、資格なしが 1 人であった。そのうち、複数資格受験 (取得) 予定者は、社会福祉士と精神保健福祉士の 2 資格が 21 人、社会福祉士と介護福祉士の 2 資格が 10 人、社会福祉士と保育士の 2 資格が 9 人であり、社会福祉士のみが 21 人であった。

(2) 卒業後の進路について

2023 年 1 月現在の卒業後の進路について尋ねた結果、「具体的な就職先 (業界や職種) が決まっている」、「進路の領域は決めているが、具体的な就職先 (業界や職種) までは決まっていない」、「福祉関連への就職を考えている程度である」、「福祉関連への就職または一般就職で迷っている」、「一般就職を考えている」、「欠損」を含めて約 9 割の学生が福祉関連の進路を考えていた (図-5)。

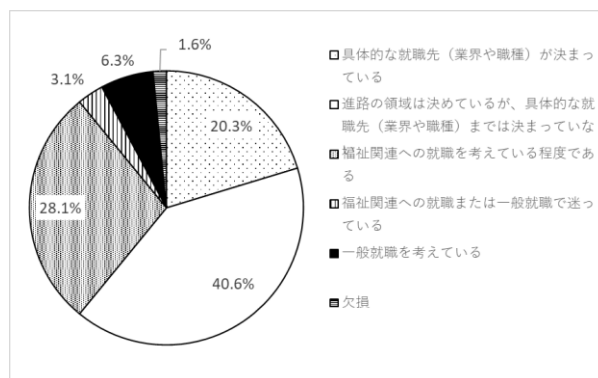


図-5 卒後の進路について (3年生)

(3) 決めている進路、考えている進路の領域について

決まっている進路または考えている進路の領域について複数回答にて尋ねた結果は、図-6 の通りである。最も多かった「障害領域（障害児福祉施設・障害者福祉施設など）」が27人（42.2%）、以下「高齢者領域（高齢者福祉施設など）」が21人（32.8%）、「子ども領域（保育所・児童養護施設など）」が14人（21.9%）、「地域福祉領域（社会福祉協議会・地域包括支援センターなど）」が13人（20.3%）、「保健医療領域（医療機関のソーシャルワーカー：MSW・PSW など）」と「一般企業」が8人（12.8%）、「公務員」が7人（10.9%）、「全く決まっていない」が4人（6.3%）、「その他」が2人（3.3%）であった。

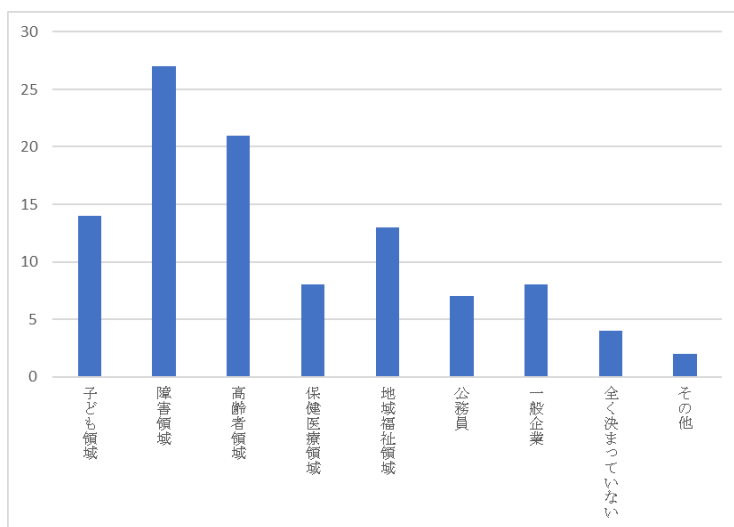


図-6 決めている進路または考えている進路の領域について（3年生）

3. 4年生と3年生の調査結果の比較

(1) 進路を選択する際に影響を与えた要因について

4年生と3年生に、進路を選択する際に影響を与えた要因について同様の質問を、「1. 最も影響なし」から「4. 最も影響あり」までの4件法で尋ねた。結果は、図-7の通りである。

4年生が進路を選択する際に「最も影響あり」または「影響あり」と感じた人で最も多かった「インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び」が49人（81.6%）、以下「専門分野に対する興味や情熱」が46人（75.4%）、「学科教員からの助言や指導」が43人（72.9%）、「専門科目など講義からの学び」が41人（68.4%）、「就職フェアなどへの参加」が37人（61.6%）、「講義や育心などで聞いた現場の人からの経験談」が29人（48.3%）、「他の学生や卒業生の体験談」が27人（45.8%）、「就職課主催のイベントやセミナーへの参加」が16人（27.1%）、「就職課などアドバイザーからの助言や指導」が15人（23.8%）であった。

一方、3年生が進路を選択する際に最も影響を受けた「専門分野に対する興味や情熱」が52人(83.9%)、以下「インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び」が47人(74.6%)、「専門科目など講義からの学び」が44人(71.0%)、「講義や育心などで聞いた現場の人からの経験談」が40人(64.5%)、「学科教員からの助言や指導」が38人(61.3%)、「他の学生や卒業生の体験談」が37人(59.7%)、「就職フェアなどへの参加」が30人(47.6%)、「就職課などアドバイザーからの助言や指導」が27人(43.5%)「就職課主催のイベントやセミナーへの参加」が23人(37.7%)、であった。

以上のことから、実習やインターンなどの実務経験を終えた4年生と、その途中にある3年生では、1番多い項目が逆転しており、「インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び」は、今後3年生にとっては進路を選択する大きな要因になる可能性がある。また、3年生の就職フェアなどへの参加が少ないのは、4年生の調査結果Ⅲ-1-(4)の通り、3年生の春期休業の2月または3月に就活を始める学生が多いため、就職活動がこれからであることを示している。これらのことから、学生の進路選択には、実務経験や就職活動など自らの経験が影響している可能性があると考え。さらに、4年生、3年生ともに、就職課などの就職活動専門のアドバイザーからの助言や指導より、より福祉に関する知識や実務経験のある学科教員からの助言や指導のほうが、進路を選択する際の影響が大きいこともうかがえた。

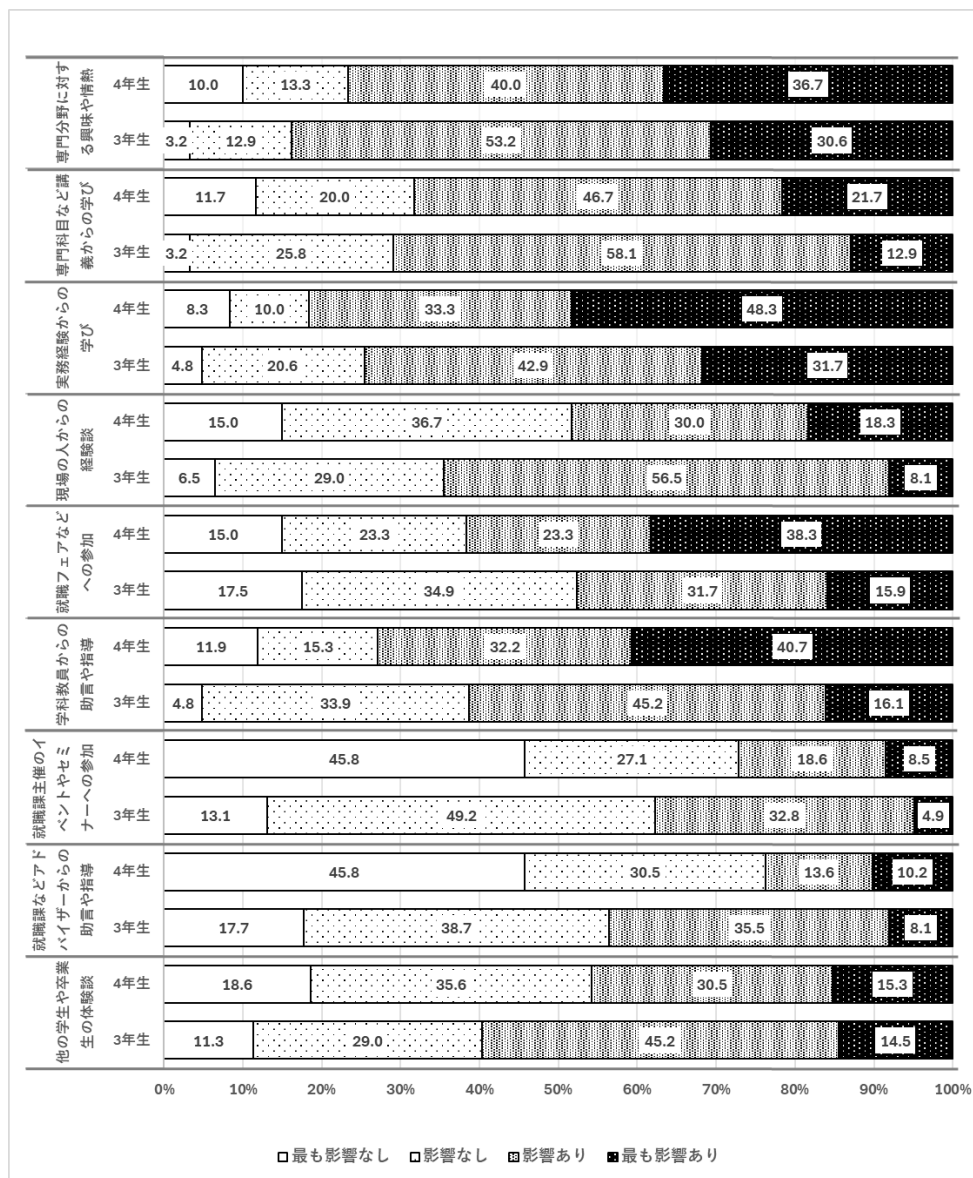


図-7 進路を選択する際に影響を与えた要因について（4年生および3年生）

(2) 就職先を決めた条件（決めるための条件）と、その影響について

4年生には就職先を決めた条件とその影響について、3年生には就職先を決めるための条件とその影響について、「1. 最も影響なし」から「4. 最も影響あり」までの4件法で尋ねた結果は、図8の通りである。

4年生について、就職先を決めた条件として「最も影響あり」または「影響あり」と回答した人が最も多かった「仕事の内容とやりがい」が53人（88.3%）、以下「職場の安定性」が50人（83.3%）、「職場

の人間関係」が48人(80.0%)、「福利厚生(従業員の健康・安全管理など)」が46人(76.7%)、「給与・賞与」と「休暇制度」および「勤務時間・勤務の柔軟性」が42人(70.0%)、「社内文化と価値観」が41人(68.3%)、「場所・交通の便」が38人(63.3%)、「キャリア開発や研修の機会」が32人(53.3%)であった。

3年生について、就職先を決めるための条件として「最も影響あり」または「影響あり」と回答した人が最も多かった「職場の人間関係」が58人(90.6%)、以下「仕事の内容とやりがい」と「職場の安定性」が57人(89.1%)、「福利厚生(従業員の健康・安全管理など)」が56人(87.5%)、「休暇制度」が55人(85.9%)、「勤務時間・勤務の柔軟性」と「場所・交通の便」が53人(82.8%)、「給与・賞与」が51人(79.7%)、「社内文化と価値観」が49人(76.6%)、「キャリア開発や研修の機会」が35人(54.7%)であった。

以上のことから、4年生と3年生は同様に「仕事の内容とやりがい」や「職場の安定性」、「職場の人間関係」の影響が大きいが、他の条件については3年生より4年生のほうが小さかった。これは実習やインターンなど実体験で感じたことが影響している可能性がある。また、3年生は、「キャリア開発や研修の機会」の影響が少なめで、それ以外が全体的に影響していた。これは、3年生がまだ現場での経験が少ないこと、現場への憧れ(理想)があること、可能な限り条件の良いところに就職したいと考えていること、あるいは就職先を決める条件で何を優先すべきか決まっていないことなどがその理由として推察される。一方、4年生は就職するにあたり、自分にとって大切な価値を明確にしている結果がこのような結果となったと考えられる。

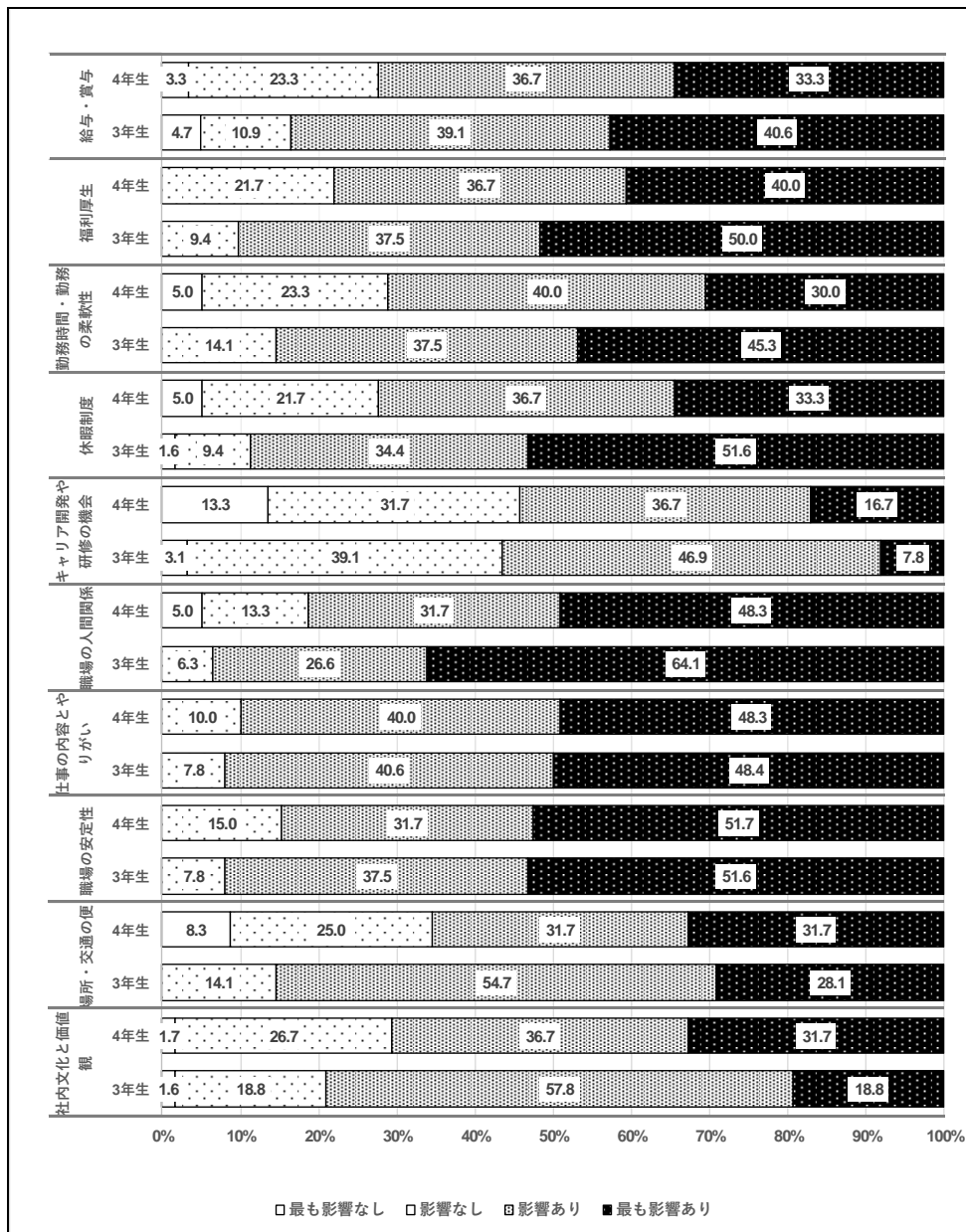


図-8 就職先を決めた条件（決めるための条件）とその影響について（4年生および3年生）

(3) 特に心に残る実習経験やボランティアなどの実践経験について

大学在学中で、特に心に残る実習経験やボランティアなどの実践経験について自由記述で尋ねた結果、4年生、3年生ともに、実習に関する記述が最も多く、4年生26件、3年生30件であった。実習中に、利用者と関わったり、職員の利用者に対する関わり方を見ることができた経験が印象に残っているよう

であった。4年生で次に多かった記述は、ボランティアが11件で、コロナ禍でなかなか実践できなかったボランティアは強く印象に残っていると推察される。次に、福祉関連施設などでのアルバイトが6件で、実習やボランティアとは違い、より長い期間対象者と関わる機会となっていた。こうした現場での経験が学生の就職選択に影響を与えていたことが4年生の記述からうかがえる。ちなみに、3年生はボランティアの記述が4件、アルバイトは記述がなく、その理由はこのアンケートからはわからなかった。

(4) 就職先、進路や領域を選ぶにあたり、自身が最も大切にしたい価値観や目標について

就職先、進路や領域を選ぶにあたり、自身が最も大切にしたい価値観や目標について自由記述で尋ねた結果、Ⅲ-3(2)以外の意見として、4年生は、「自分らしく働くことができるか」や「自分がしたいことができるか」などの働き甲斐、「企業理念」や「職場の雰囲気」などの職場環境、「見学などをして自分の目で見ること」などを大切にしていた。一方、3年生も同様に働き甲斐を求めている意見が多く見られたが、まだ進路について明確に決まっていない学生も多く、「給与」「休暇」「福利厚生」「プライベートとの両立」など、まずはワーク・ライフ・バランスを重要視する意見が多く見られた。

(5) 就職先、進路や領域を決定する際に得たアドバイスや支援で、特に印象に残ったものについて

就職先を決定する際に得たアドバイスや支援で、特に印象に残ったものについて自由記述で尋ねた結果、4年生は、「直接職場を見ること」や「先輩から情報を集める」など可能な限り自身の目や耳で情報を集めるように指導を受けたこと、採用時の面接や試験のアドバイスに関する意見が多かった。このことから、就職活動の最中の4年生には、職場や就職活動などについての個別具体的なアドバイスが有効であることがわかった。一方、3年生は、授業や育心の時間で現場の人や先輩から直接話を聞いたことをあげている学生が多かったため、職種別の仕事内容といった領域選択のために必要な情報や就職活動の進め方といった就職に関する概要を、彼らとその仕事をイメージできるような、例えば、福祉職従事者や就職活動の経験者らと接点をもてるような形式で提供することが有効だと感じた。

IV. まとめと今後の課題

本稿は、本学科学生の進路選択に関する実態調査を行い、その結果を分析することで、学生の進路決定に影響を与える要因や課題を明らかにすることを目的とした調査の報告である。結果、進路を選択する際の影響として、「専門分野に対する興味や情熱」、「専門科目など講義からの学び」および「インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び」が3年生と4年生ともに高かった。特に、4年生の調査結果の通り、学生は3年生の春期休業の2月または3月に就活を始める傾向にあるため、「インターンシップや実習、ボランティアやアルバイトなどの実務経験からの学び」は、3年生が4年生に進級して以降、さらに進路を選択する大きな要因になる可能性がある。

また、4年生と3年生は同様に「仕事の内容とやりがい」や「職場の安定性」、「職場の人間関係」の

影響も大きいですが、他の条件については3年生より4年生は影響が小さい。これには実習やインターンなど実体験で感じたことが影響している可能性が考えられるが、3年生は現場での経験が少なく、また現場への憧れ（理想）があり、可能な限り条件の良いところに就職したいと考えている、あるいは就職先を決める条件で何を優先すべきか決まっていないことによるものと推察される。

今後のキャリア教育としては、4年生の多くが3年生の春期休業中に就職活動を始めていることを考慮すると、3年生までに進路のイメージをつけておくことが必要である。また、就職の情報サイトより直接教員などから情報を集めていることが推察されることから、様々なニーズをもった学生を支援する際、情報サイトの活用方法や就職課との連携など、学科教員だけでなく、チームとして学生の就職活動を支援することが必要である。さらに、上記Ⅲ-3(2)「就職先を決めた条件（決めるための条件）」と、その影響について」の結果の通り、「キャリア開発や研修の機会」の影響が少なく、就職後のキャリア形成について関心の低さが見られたため、福祉の仕事におけるキャリアについての教育内容も検討していく必要がある。

文献

日本学術会議社会学委員会社会福祉学分野の参照基準検討部会（2015）大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準_社会福祉学分野

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h150619.pdf>（2024年2月9日アクセス）